

2022年度 第2回 ECCアーティスト美容専門学校 学校関係者評価 報告書

学校法人山口学園ECCアーティスト美容専門学校 2022年度第2回学校関係者評価委員会を、令和5年3月2日に実施しましたので以下のとおり報告いたします。

令和5年3月26日

学校法人 山口学園
ECCアーティスト美容専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員(「ECCアーティスト美容専門学校 学校評価実施規定」選出区分)

【関連業界等関係者「同第12条第1項(1)」】

委員長

宮崎 裕輔 氏 (株式会社クラフト・ワークス 人材開発部)

【卒業生「第12条第1項(2)」】

鈴木 亜理紗 氏 (ECCアーティスト美容専門学校卒業生)

【保護者または地域関係者「第12条第1項(3)」】

中上 隆雄 氏 (済美地域社会福祉協議会 会長)

【その他校長が必要と認める者「第12条第1項(4)」】

大久保 紀子 氏 (一般社団法人 ジャパン・ビューティメソッド協会 JBMA)

川畑 勉 氏 (資生堂プロフェッショナル株式会社 営業部部长)

貴治 康夫 氏 (元大阪府立高校教頭)

【同席者】

川添 雅英	ECCアーティスト美容専門学校 学校長代理
東井 喜美	ECCアーティスト美容専門学校 副校長
下西 智也	ECCアーティスト美容専門学校 教務課
兼田 寛子	ECCアーティスト美容専門学校 キャリアセンター
長尾 邦光	ECCアーティスト美容専門学校 入試課
西村 宗博	ECCアーティスト美容専門学校 教務課 (書記)
井上 久美	ECCアーティスト美容専門学校 専任教員

【報告1】第1回学校関係者評価委員会の学校の課題に対する意見と学校の取り組みについて

【課題1】学生、教職員への教育目標の周知(告知)方法

<前回委員からいただいた意見>

- ・伝達頻度を高める、回数を増やすこと。
- ・共有は大きな場から順番に小グループ、個人に落とし込むこと。
- ・視聴覚的に確認できると定着を図りやすい。

<<本校の取り組み>>

□伝達機会・頻度の増加

- ・保護者の方へは入学式にて、教職員には年度初めの全体会、全講師オリエンテーションにて、学生にはオリエンテーション、「目標達成シート」作成・確認時において、繰り返し学校の理念、教育目標を共有する。
- ・「山口学園の理念」「アーティスト美容専門学校の教育目標」を1号館、2号館に掲示。

【課題2】人間力の育成と評価方法に関して

<前回委員からいただいた意見>

- ・協働する力や問題解決力は何らかの実体験を通して育まれる。
- ・ボランティアや社会福祉活動を科目化し、どのような行動、思考を持つかを測ることも一つの方法である。
- ・社会人としてタイムマネジメント力が問われる。
- ・学生の主体的なグループワークやチームとしての活動を通し、互いに協力し合うことで人間力が育成される。
- ・提案ができるかどうかは社会人として重要。評価項目に「提案ができる人材」を入れるとよい。
- ・評価は小項目別に基準を設け、その一つ一つをチェックすることによって全体のパフォーマンスの向上が図れる。

<<本校の取り組み>>

□教育活動におけるPDCAの実施

- ・活動後に振り返りを行い、学び、気づきを言語化することによって、学生自身に考えさせ、その学びを次の活動に活かす仕組みづくりを行う。

□評価方法の設定

- ・評価に関しては評価基準の設定、評価方法及び「学生心得8カ条」のセルフチェックの実施を検討中。

【課題3】保護者様との接点の取り方や方法に関して

<前回委員からいただいた意見>

- ・授業参観日やアーティスト美容ならではの美容系のジャンルの保護者向け講座を開催し、来校の機会を作る。

- ・学校行事を動画配信することで学校への興味関心を高める。
- ・コンタクトが取りづらい保護者様には、個別に連絡を取り続ける。

<<本校の取り組み>>

□情報の発信

- ・授業参観動画の配信、保護者会の実施、「Eコレ」観覧促進、アプリを活用した情報の発信を行う。

□接点の増加

- ・保護者会の実施
- ・保護者の方にサロンでの施術を受けていただく「感謝 DAY」を実施（ヘアサロン）

【課題 4】学修成果向上に関して（補講を欠席する学生、登校しづらい学生への指導方法）

<前回委員からいただいた意見>

- ・面談以外の学生とのコミュニケーションの場を設けて、そこからの授業復帰につなげていく。
- ・登校しづらい学生に対しては、専門カウンセラーと担任、場合によっては学校医、外部医療機関地域と連携することが必要。

<<本校の取り組み>>

□居場所づくり

- ・学生会・トモカフェ・ピアティーチング・メイクゼミ等のコース、学年の垣根を超えた学生主体の活動を通じた学生コミュニティの構築。

□学生相談室連携

- ・担任、教務課スタッフが学生相談室カウンセラーと定期的に情報共有の場を持ち、個々の学生の状況に応じた対応策を考え、取り組むサポート体制を強化。

※上記学校の改善・取り組みに対する委員の意見

- ・具体的に学生に届く取り組みが実施されており改善が図られている。ピアティーチングやトモカフェなどの取り組みは有効的である。
- ・資料が見やすく理解しやすい、学生へのフォローが手厚い印象を受けた。
- ・ロイロノートを活用した「目標達成シート」の担任のコメントは非常に重要である。学生自身が目標や夢を言語化し、整理することもとても大事である。
- ・人間力向上はどの学校でも注目されており、特にコミュニケーション能力が重要である。
- ・美容系分野に進む学生の保護者は、美容分野に興味強い方が多いため、講座を開催するのは良いアイデアで是非実現させてほしい。
- ・ボランティアで年配者に接するのはコミュニケーション力向上の貴重な機会になると思うのでぜひ参加を促進していただきたい。
- ・目標と課題に対する反省が大事。サロンでも PDCA シートやチャレンジシートを導入している。コミュニケーション能力が低い新入社員が多く、学生時代にこのようなトレーニングをしているのはとても良いことだと感じる。
- ・ロイロノートを活用した「目標達成シート」は学修成果の向上に有効である。
- ・「学生心得 8 か条」が良い。なぜ、挨拶するのか、なぜ敬語は必要かなど理由も明記し伝えられているので、学生が必要性を理解し取り組みやすい。

【報告2】2022年度の学校運営報告

< 学生募集 >

- 分野別イベント(メイク OC、オンラインメイク講座)の開催
- 高校ガイダンスへの参加数増加
- インスタグラム、Tiktok でのライブ配信を毎月配信
- オープンキャンパス時に「専門追求型カリキュラム」を訴求

< 教務課報告 >

学修成果主義に基づく教育の質の保証・向上

□目標達成シートの導入

入学時に将来の夢、目標を立て、そのために必要な学修目標を DP、CP に照らし合わせて、具体的な目標、行動に落とし込む。それを担任と共有し、各期に振り返りながら、最終目標達成を目指す。

□学修成果発表会の実施

最終学年後期に学生が本校での学びを振り返り、プレゼンテーション形式で、何を学び、何ができるようになったのか自らの言葉で説明する。

□教育の質の保証・向上を目的とした第三者評価受審

一般社団法人専門職高等教育質保証機構による評価を受け、全ての項目で、基準を満たしていると評価を受けており、その結果が 3 月に本校ホームページ上で公開される。

< キャリアセンター >

□2022 年度 2 月末時点内定率

97.3%(昨年度同時期 89.3%)

□2021 年度と 2022 年度の求人状況

美容師国家試験資格取得コースに関しては求人数に差異はない。最も差異があったビューティアドバイザーコースは 2021 年度コロナ禍の影響が残っていたが 2022 年度は復活傾向。

<< 近年の学生の傾向 >>

- ・情報が容易に入手できることで、その情報を精査する能力が十分に身につけていない。
- ・受け身の学生が多く、能動的に物事に取り組む姿勢が希薄である。
- ・自省をせず他責にしがちである。
- ・他者に対する配慮が十分でない行動が見受けられる。
- ・客観的な判断に基づく行動よりも自己の論理に基づく行動を優先しがちである。

※上記の近年の学生の傾向を踏まえた学生指導に関する委員の意見

- ・近年の学生の傾向は他校や、新入社員にも見られる。環境が良いので甘えている状況。情報過多で便利になってはいるが、学生は情報の取捨選択ができない。
- ・指導と体験が必要。自己分析に関してもできない学生が増えており、課題である。
- ・学生心得 8 か条の浸透を図るのが良いのではないか。
- ・近年の学生の傾向はサロンにくるアルバイト生にも見受けられる。

- ・学生指導は担任と共にサポートに当たる職員を配置する「アドバイザー制度」を導入し対応している。
- ・ボランティア活動など含めて実体験を増やしていくしかないと考えている。
- ・どの業界も同じ状況だと思う。ベテラン・新人の話聞いてフラットに対応している。研修なども小規模のグループで行っているが意外性が出て良い。
- ・ SNS であふれている技術に関する情報は、実際に全部やってみて自分にあうものを見つけることが大事である。

【報告3】 2023 年度学校運営方針について

□スローガン

4 つの力(専門力、国際力、人間力、ICT 活用力)を持った人材育成
～これからの社会をよりよく生きていく人材に～

□方針: ①各コース差別化(資格、検定、コンテスト、アーティストアシスタント実績を高める。

②経営安定(学生数増、経費削減) 入学者の確保、進級率の向上

□ECC アーティスト美容専門学校高等部(高等部運営と募集の安定化)

2023 年 4 月開講

□2025 年度に向けて高等課程の申請予定

□新学科設立準備

トータルビューティ基礎学科2024 年4月開講予定

【より良い学校運営を目指して】

- ・報告1で課題として取り上げた項目は、本校の人材育成目標を達成するうえで必要な教育活動のため、今後も今回発表した本校の取り組みに関して検証を行っていく。
- ・報告2であがった近年の学生の傾向については委員からも多くのご意見が出た。本校の「学生心得 8 か条」が良いとの意見を多くいただけたので、浸透度の測定(判定)方法を検討しつつ、教育を行っていく。また、学修成果向上に向けた取り組みは、2023 年度も継続をする。

以上